

2026年3月期 第3四半期決算説明資料

2026年2月5日

株式会社 **ダイセル**

- (1) サマリー
- (2) 2026年3月期 第3四半期業績
- (3) セグメント別 売上高・営業利益
- (4) セグメント別 事業概況（対前年同期）
- (5) セグメント別 事業概況（下期予想進捗）
- (6) 連結貸借対照表
- (7) Appendix

2026年3月期 3Q実績（対前年同期比）

売上高	4,248 億円	(△1.8%)
営業利益	324億円	(△25.0%)
EBITDA	640億円	(△12.9%)
親会社に帰属する 四半期純利益	357億円	(△18.9%)

為替レート USD/JPY : 149円
(前年同期 USD/JPY : 153円)

2026年3月期 対予想進捗率

	通期予想※	通期予想進捗率
売上高	5,830億円	(72.9%)
営業利益	465億円	(69.8%)
EBITDA	895億円	(71.5%)
親会社に帰属する 当期純利益	500億円	(71.4%)

為替レート（通期予想）USD/JPY : 146円

【売上高】減収

- (+) セイフティ事業にて、中国やインドを中心にエアバッグ用インフレータの販売が増加。
- (△) マテリアル事業のアセテート・トウが大手顧客向け需要は安定している一方でローカル顧客にて在庫調整があり販売減少。

【営業利益】減益

- (+) セイフティ事業の米国拠点の生産性改善や中国におけるコストダウン等が貢献。
- (△) マテリアル事業の前期からの繰越在庫影響や、エンジニアリングプラスチックの新プラント稼働による減価償却費等の増加。

【3Q売上高】計画※を下回る（※非開示の3Q予想）

- (+) 為替の影響。
- (+) エンジニアリングプラスチック事業において、主にAIサーバー向け需要の好調によりLCPやPPSの販売が計画を上回った。POM販売については、中国市場において競合の価格動向等を注視し、販売価格を戦略的に下げたことにより販売数量は増加。
- (△) マテリアル事業のアセテート・トウの販売時期が来期へ後ろ倒し。

【3Q営業利益】計画※を上回る（※非開示の3Q予想）

- (+) セイフティ事業におけるコストダウン効果や為替の影響。
- (△) アセテート・トウ販売の弱含み。

【通期予想への影響】

- 2026年1月に発生したCOプラントトラブルは解消し1月20日再稼働（影響金額：約10億円）。
- セイフティ事業における米国関税影響については、半期遅れでの価格転嫁を計画通り実施。

2026年3月期 第3四半期業績



	2025/3 3Q実績	2026/3 3Q実績	対前年同期		通期予想※	進捗率
			増減	増減率		
売上高	4,325	4,248	△77	△1.8%	5,830	72.9%
営業利益	432	324	△108	△25.0%	465	69.8%
経常利益	448	339	△109	△24.3%	475	71.3%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	440	357	△83	△18.9%	500	71.4%
為替レート USD/JPY	153	149				
EBITDA	735	640	△95	△12.9%	895	71.5%

※2025年11月6日発表値

セグメント別 売上高・営業利益（対 前年同期 増減・要因分析）

	売上高							売上高
	2025/3 3Q実績	2026/3 3Q実績	増減	増減率	分析			通期予想※ 進捗率
					数量差	単価差	単価差の内 為替影響	
メディカル・ヘルスケア	109	120	+12	+10.7%	+12	△0	△3	75.3%
スマート	285	275	△10	△3.5%	△4	△6	△2	70.4%
セイフティ	728	770	+43	+5.8%	+53	△11	△9	74.4%
マテリアル	1,292	1,184	△108	△8.3%	△26	△82	△22	68.8%
エンジニアリングプラスチック	1,868	1,859	△9	△0.5%	△9	+0	△31	75.3%
その他事業	44	40	△4	△9.9%	△4	－	－	72.3%
合 計	4,325	4,248	△77	△1.8%	+22	△99	△67	72.9%

	営業利益								営業利益
	2025/3 3Q実績	2026/3 3Q実績	増減	増減率	分析				通期予想※ 進捗率
					数量影響	価格影響	その他	営業利益の内 為替影響	
メディカル・ヘルスケア	4	6	+3	+75.1%	+11	△0	△8	△1	159.8%
スマート	△6	4	+9	－	+4	+2	+3	△3	28.6%
セイフティ	31	50	+20	+64.8%	+21	△19	+18	△1	77.4%
マテリアル	191	105	△86	△45.2%	+47	△61	△73	△11	52.3%
エンジニアリングプラスチック	206	153	△53	△25.6%	+9	+19	△81	△6	87.5%
その他事業	7	6	△1	△11.2%	△1	－	－	－	78.1%
合 計	432	324	△108	△25.0%	+92	△60	△140	△21	69.8%

※2025年11月6日発表値

セグメント別 事業概況（対前年同期）

■ メディカル・ヘルスケア

単位：億円	2025/3 3Q実績	2026/3 3Q実績	対前年同期	
			増減	増減率
売上高	109	120	+12	+10.7%
営業利益	4	6	+3	+75.1%
為替レート USD/JPY	153	149		

営業利益（対前年同期）		
分析	増減	主な増減要因
数量影響	+11	ライフサイエンス、ヘルスケア共に販売数量が増加
価格影響	△0	
その他	△8	販売数量増加に伴う経費や研究開発費の増加

【対前年同期】 増収・増益

ライフサイエンス 増収（1.5%）

インドにおける合成サービスは減少したものの、キラルカラム販売数量が増加したことや、欧州での医薬製造用充填剤の販売があり増収。

ヘルスケア 増収（+36.9%）

国内外における化粧品市場や健康食品市場は堅調に推移。主にサプリメント向け販売が好調であり、中でもエクオールが大きく伸長したこともあり増収。

セグメント別 事業概況（対前年同期）

■ スマート

単位：億円	2025/3 3Q実績	2026/3 3Q実績	対前年同期	
			増減	増減率
売上高	285	275	△10	△3.5%
営業利益	△6	4	+9	－
為替レート USD/JPY	153	149		

営業利益（対前年同期）		
分析	増減	主な増減要因
数量影響	+4	エポキシ樹脂等の販売数量の増加
価格影響	+2	原料価格の低下
その他	+3	有機半導体事業撤退（2024年12月）による経費減少

【対前年同期】 減収・増益

ファンクショナルプロダクツ 増収（+0.4%）

カプロラクトン誘導体は、中国における価格競争や為替の影響などにより減収。
脂環式エポキシは、高付加価値用途への差別化戦略により欧米市場でのシェアが拡大しており、さらに電子基板用途等の電子材料市場の需要の回復などにより増収。

アドバンステクノロジー 減収（△7.8%）

半導体市場は堅調に推移しており、電子材料向け溶剤は増収。フォトレジスト材料は拡販の成果があるものの、顧客の生産時期のズレ等により減収。機能フィルムは、電池向け離型フィルムの需要が徐々に回復しているが、車載ディスプレイフィルム用途が減少し減収。

セグメント別 事業概況（対前年同期）

■ セイフティ

単位：億円	2025/3 3Q実績	2026/3 3Q実績	対前年同期	
			増減	増減率
売上高	728	770	+43	+5.8%
営業利益	31	50	+20	+64.8%
為替レート USD/JPY	153	149		

営業利益（対前年同期）		
分析	増減	主な増減要因
数量影響	+21	インフレータ販売数量の増加
価格影響	△19	関税影響、為替影響
その他	+18	北米生産拠点の生産性改善、コストダウン

【対前年同期】 増収・増益

モビリティ 増収（+7.6%）

前年同期では日系自動車認証不正問題の影響等があったが、当第3四半期累計期間においては、中国市場における政府の景気刺激策による中国自動車メーカーの生産回復や、インドにおいて新規ラインを増設し拡販したことなどにより、インフレータ販売数量は増加し、増収。

インダストリー 減収（△13.3%）

2025年3月期からEU向け並びに中国向けの新規ビジネスを受注し拡販するも、外販イニシエータ（点火器）の販売減少を受け、減収。

セグメント別 事業概況（対前年同期）

■ マテリアル

単位：億円	2025/3 3Q実績	2026/3 3Q実績	対前年同期	
			増減	増減率
売上高	1,292	1,184	△108	△8.3%
営業利益	191	105	△86	△45.2%
為替レート USD/JPY	153	149		

営業利益（対前年同期）		
分析	増減	主な増減要因
数量影響	+47	(+) 前期のCOプラントトラブル影響の解消 (△) アセテート・トウの販売数量減少
価格影響	△61	酢酸市況の低下、為替の影響
その他	△73	移動平均差や富山フィルタートウ完全子会社化に伴う経費等の増加

【対前年同期】 減収・減益

アセチル 減収（△9.8%）

アセテート・トウは、大手たばこメーカー向け販売が堅調なものの、ローカルメーカーでの在庫調整による販売数量の減少や、為替の影響により減収。

ケミカル 減収（△4.3%）

酢酸セルロースは、液晶ディスプレイ用途は前年同期並みを維持したものの、中国市場におけるプラスチック用途の需要が減少し、減収。その他のケミカル製品は、前期に販売調整を実施していた酢酸エチルの供給が回復し販売数量が増加したことや、1,3BGの化粧品市場での需要が堅調に推移し増収。

セグメント別 事業概況（対前年同期）

■ エンジニアリングプラスチック

単位：億円	2025/3 3Q実績	2026/3 3Q実績	対前年同期	
			増減	増減率
売上高	1,868	1,859	△9	△0.5%
営業利益	206	153	△53	△25.6%
為替レート USD/JPY	153	149		

営業利益（対前年同期）		
分析	増減	主な増減要因
数量影響	+9	LCP販売数量の増加
価格影響	+19	原燃料価格の低下、為替の影響
その他	△81	減価償却費の増加や定修費用の増加

【対前年同期】 減収・減益

ポリプラスチックス 増収（+2.0%）

中国における中国自動車メーカーは好調なものの、日系自動車メーカーは低調。為替の影響やPOMの販売数量の減少があったもののLCP等の販売が増加し増収。

- ・ POMは、価格競争などにより諸工業向けが減少し、販売数量は減少。
- ・ PBTは、自動車向け等の好調により販売数量増加。
- ・ PPSは、自動車向けに加え、AIサーバー向けが好調なことにより販売数量は増加。
- ・ LCPは、AIサーバー向けが好調なことや、中国での買い替え補助金施策等によりスマートフォンやパソコンなどの電子デバイス向けが大幅に増加し、販売数量は増加。2025年2月に台湾にて稼働した増産プラントは2025年5月にフル稼働。
- ・ COCは、環境対応包装材向けなどの需要は顧客の在庫調整により低迷しているものの、前期に生産調整があったため販売数量は横這い。

ダイセルミライズ 減収（△13.9%）

2024年7月に持分法適用会社ノバセルへ樹脂コンパウンド事業を移管した影響により減収。

セグメント別 事業概況（下期予想進捗）

単位：億円		2026/3 3Q期間 実績	下期予想※	下期予想※ 進捗率	3Q（10－12月）実績 対3Q予想（非開示）の状況
メディカル・ヘルスケア	売上高	44	84	52.8%	売上高上振れ・営業利益上振れ ・ ライフサイエンス事業では、キラルカラムの中国向け販売が好調で計画比を上回り、加えて為替の影響もあり上振れ。 ・ ヘルスケア事業では、健康食品素材でのエクオール販売が好調であり計画を上回る。
	営業利益	4	2	224.5%	
スマート	売上高	93	208	44.6%	売上高下振れ・営業利益上振れ ・ 脂環式エポキシは高付加価値用途への拡販により計画よりも上振れたものの、カプロラクトン誘導体は欧州の需要減少等により下振れ。 ・ 電子材料向け溶剤は、国内半導体市場は堅調なものの、液晶向け需要や海外での欧州自動車塗料向け等が計画を下回った。フォトレジスト材料は半導体需要が堅調であり上振れ。機能フィルムは、新規開発品の販売開始遅延等により下振れ。
	営業利益	△0	9	－	
セイフティ	売上高	273	538	50.8%	売上高上振れ・営業利益上振れ ・ 中国自動車メーカー向け市場が好調なものの、EU市場での一部自動車メーカーの減産の影響や、インド市場での自動車販売が想定よりも伸長しなかったこと等によりインフレーター販売数量は計画を下回ったが為替の影響により売上高は上回った。 ・ 営業利益は、全拠点での継続したコストダウン、タイ拠点でのロジスティック作業の外部委託、関税の一部転嫁等により上振れ。
	営業利益	24	38	61.8%	
マテリアル	売上高	412	948	43.5%	3Q売上高下振れ・営業利益下振れ ・ アセテート・トウは、一部大手たばこメーカーへの販売が後ろ倒しになり、ローカルメーカー向けが計画より低迷し下振れ。
	営業利益	55	150	36.6%	
エンジニアリングプラスチック	売上高	640	1,251	51.2%	3Q売上高上振れ・営業利益上振れ ・ COCは、環境対応包装材向けなどの需要の立ち上がりが遅れているため販売が計画より大幅に減少したが、PBTが欧州自動車向けに増加したことなどにより売上高は上振れ。 ・ 営業利益は、為替の影響等により上振れ。
	営業利益	38	60	63.6%	
為替レート USD/JPY		154	145	※2025年11月6日発表値	

連結貸借対照表

単位：億円		2025年 3月末	2025年 12月末	増減
流動資産		3,956	4,214	+258
	現預金及び預金	651	758	+107
	受取手形及び売掛金	1,139	1,167	+27
	棚卸資産	1,779	1,844	+65
	その他	387	445	+59
固定資産		4,182	4,626	+444
	有形固定資産	3,194	3,669	+475
	無形固定資産	106	112	+6
	投資その他資産	881	845	△37
資産合計		8,138	8,841	+703
負債		4,388	4,839	+451
	有利子負債	2,861	3,262	+401
	その他	1,527	1,577	+50
純資産		3,750	4,002	+252
負債純資産 合計		8,138	8,841	+703
為替レート USD/JPY		150	157	

- 資産合計の増加の内、為替の影響は+464億円
- 棚卸資産の増加+65億円のうち為替影響が+57億円。26年3月末に向けて、当4Qにアセテート・トウの生産調整等を実施し、前期末よりも在庫を圧縮。
- 有形固定資産増加の主な要因は、ポリプラスチックスグループのPOM・LCP・COC製造能力増強投資やダイセルのセルロース製法転換等の投資。
- 有利子負債の増加は、主にポリプラスチックスのドイツや中国での増産投資に関連する長期借入金の増加。

COC樹脂（環状オレフィン・コポリマー）の事業計画見直しおよび新規プラントの稼働開始延期について

当社連結子会社であるドイツ法人TOPAS Advanced Polymers GmbHが製造販売を行うCOC樹脂（環状オレフィン・コポリマー）について、市場環境の変化に伴い事業計画を見直すとともに、現在建設中の新規プラント（第2プラント）の稼働を延期することを決定。

■事業計画の見直しおよび新規プラントの稼働延期の理由

包装材分野や医療分野を中心に幅広く使用されているCOC樹脂について、当社は、2025年頃から欧州の環境対応包装分野における需要が段階的に拡大していくと想定し、それに対応すべく新規プラント（第2プラント）の建設を進めていた。しかし、2025年2月にEU包装・包装廃棄物規則（PPWR）が発効された結果、市場の環境対応が2030年を目標に進むこととなり、需要拡大の進展が当初想定よりも緩やかになっている。また、新規プラントについても昨今の建設費や人件費の高騰により投資額が当初計画よりも大幅に増加している。

これらの事業環境の変化により、COC樹脂の収益性が大幅に悪化する可能性があるため、今後の需要動向を改めて見極めることといたします。また、安定的な立ち上げおよび需給バランスを考慮した運営を図る観点から、新規プラントの稼働時期を2026年4月から2027年3月期第4四半期へ延期する。

■今後の見通し

事業計画および2026年3月期連結業績への影響については現在精査中であり、公表すべき事項が発生した場合には速やかに公表。

COC樹脂について

【主な用途】

- COC樹脂は、ガラスのような透明性と優れた純粋性を併せ持つ非晶性樹脂で、優れた水蒸気バリア性、低溶出、低吸着を特長とし、包装材分野および医療分野を中心に幅広く使用。
- 医薬包装容器、ドラッグデリバリー・医療機器・セルフモニター、サステナブル包装(PETボトル用ポリオレフィン(PO)ラベル、POモノマテリアル包装)。

【売上高】 約150億円（2025年3月期実績）

【販売数量の見込み】（前期比増減率）

	2026年3月期	2027年3月期
2025年3月期決算説明資料 (2025年5月13日)	+45%	+50%
2026年2月5日現在	△4%	+32%

Appendix

「総還元性向40%以上」「DOE4%以上」との方針に則り安定的な株主還元を維持

2025年3月期

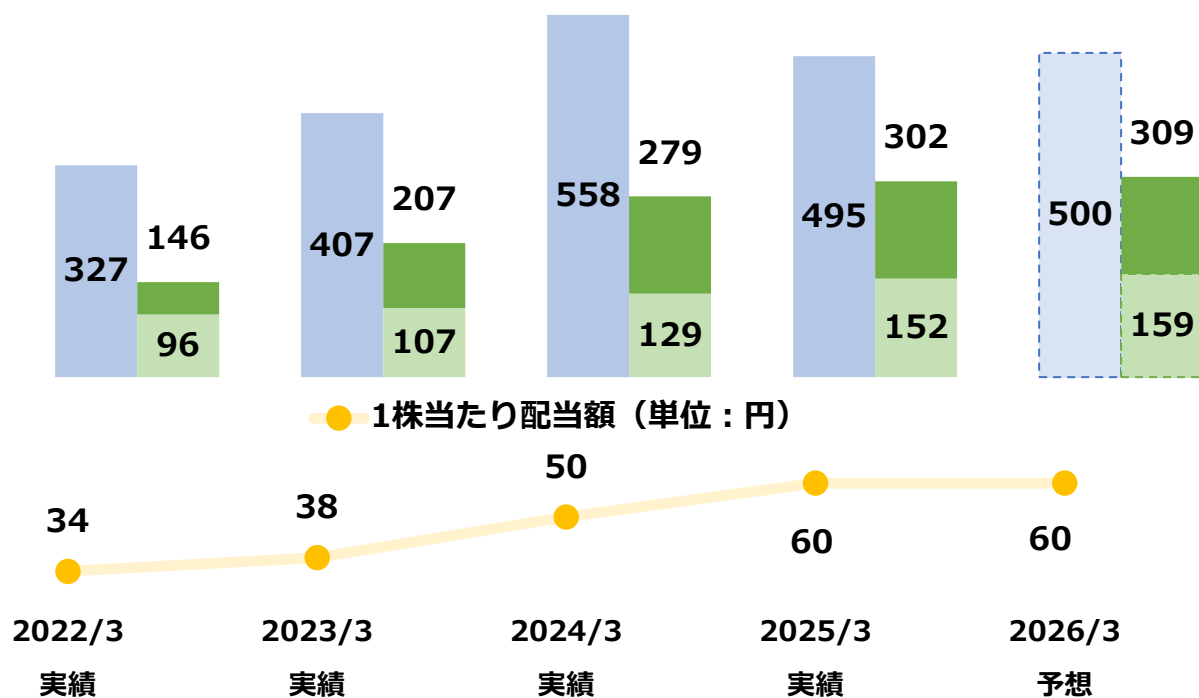
- ・ 期末配当 30円／株
(年間配当60円／株 前期から10円増配)
- ・ 約150億円(1,098万株)の自己株式を取得
(取得期間:2024年11月~2025年2月)

2026年3月期

- ・ 中間配当 30円／株・ 期末配当計画 30円／株
(年間配当60円／株 前期と同額、前回予想から変更なし)
- ・ **上限150億円(1,100万株)の自己株式取得決定**
(取得期間:2025年11月~2026年3月)

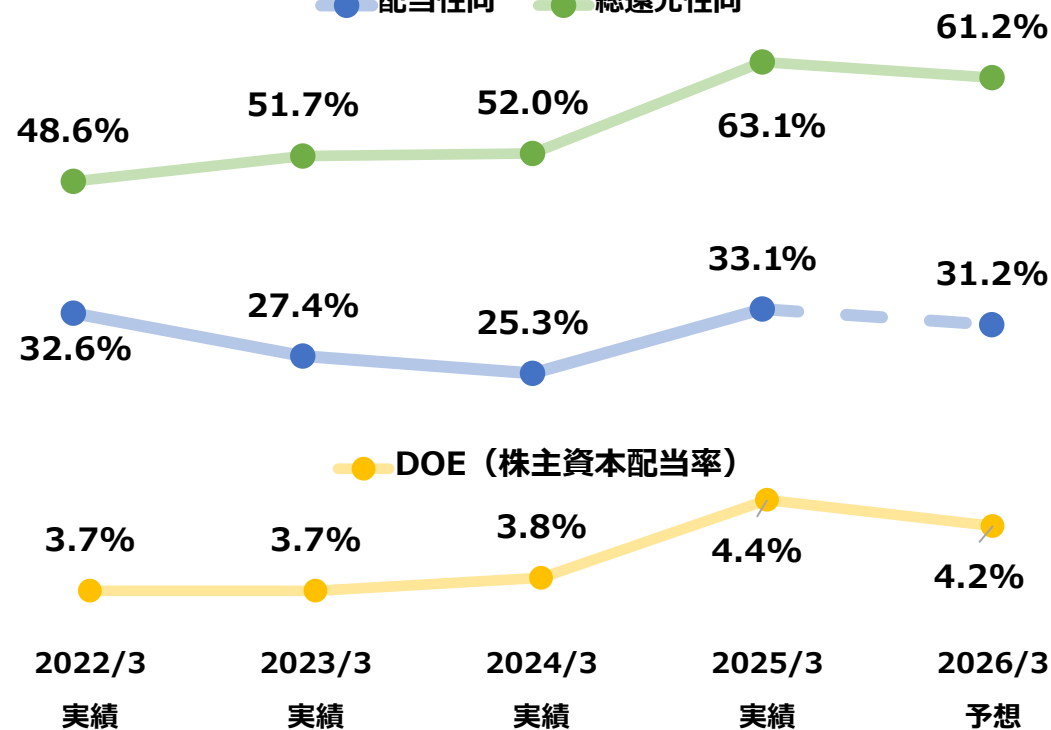
親会社株主に帰属する当期純利益および株主還元額推移(単位:億円)

■ 親会社株主に帰属する当期純利益 ■ 総還元のうち配当還元額 ■ 総還元額



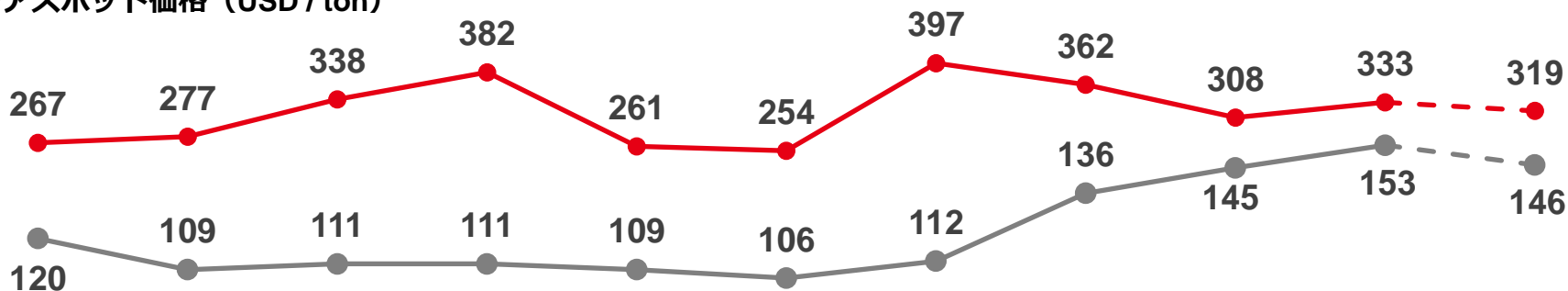
株主還元指標推移

● 配当性向 ● 総還元性向



売上高・営業利益・EPSの推移

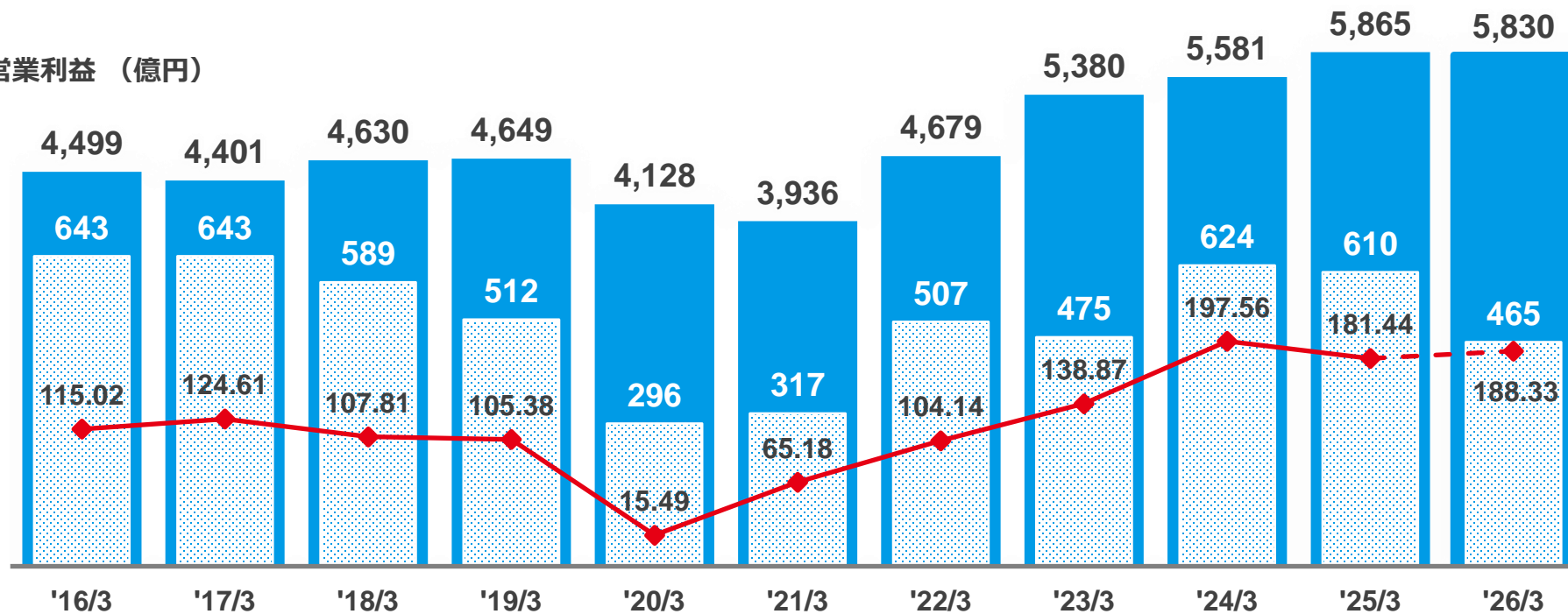
● メタノールアジアスポット価格 (USD / ton)



● 為替レート (USD / JPY)

■ 売上高・□ 営業利益 (億円)

◆ EPS (円)



※2025年11月6日発表値

予想※

セグメント別 売上高・営業利益（四半期推移）

単位：億円	売上高						
	2025/3				2026/3		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
メディカル・ヘルスケア	35	37	37	36	38	38	44
スマート	103	93	89	88	95	87	93
セイフティ	233	238	257	248	245	253	273
マテリアル	445	440	407	542	403	369	412
エンジニアリングプラスチック	627	618	623	612	599	620	640
その他事業	13	16	16	14	13	12	15
合 計	1,456	1,441	1,429	1,540	1,393	1,378	1,477

単位：億円	営業利益						
	2025/3				2026/3		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
メディカル・ヘルスケア	1	1	2	△1	2	0	4
スマート	5	△3	△8	△2	2	2	△0
セイフティ	△0	14	17	9	16	11	24
マテリアル	91	53	48	105	44	6	55
エンジニアリングプラスチック	77	75	54	64	65	49	38
その他事業	1	2	4	3	1	3	2
合 計	175	141	116	178	130	71	123

2026年3月期 業績予想

		2025/3 実績			2026/3 修正予想※			増減
単位：億円		上期実績	下期実績	年間	上期実績	下期予想	年間	
	メディカル・ヘルスケア	72	73	144	76	84	160	+16
	スマート	196	177	373	182	208	390	+17
	セイフティ	471	506	976	497	538	1,035	+59
	マテリアル	885	949	1,834	772	948	1,720	△114
	エンジニアリングプラスチック	1,245	1,234	2,480	1,219	1,251	2,470	△10
	その他事業	28	29	58	25	30	55	△3
売上高		2,897	2,968	5,865	2,771	3,059	5,830	△35
	メディカル・ヘルスケア	2	1	3	2	2	4	+1
	スマート	2	△10	△8	4	9	13	+21
	セイフティ	13	26	39	27	38	65	+26
	マテリアル	143	153	296	50	150	200	△96
	エンジニアリングプラスチック	152	118	270	115	60	175	△95
	その他事業	3	6	10	4	4	8	△2
営業利益		316	294	610	201	264	465	△145
経常利益		307	316	623	204	271	475	△148
親会社株主に帰属する当期純利益		321	174	495	188	312	500	+5
(参考) 為替レート USD/JPY		153	152	153	146	145	146	

※2025年11月6日発表値

為替レート・主要原燃料価格動向

		2025/3 実績		2026/3 期初計画	2026/3 上期実績・下期計画※	
		上期	下期	通期	上期	下期
為替レート (USD/JPY)		153	152	140	146	145
原料	メタノール アジアスポット価格 (USD/ton)	332	334	330	307	330
	原油 ドバイ (USD/bbl)	82	75	75	69	70
	国産ナフサ (円/kl)	77,950	74,000	67,000	64,750	63,000

※2025年11月6日発表値

セグメント	サブセグメント	主な製品
メディカル ・ヘルスケア	ライフサイエンス	クロマトグラフィー用カラム・充填剤（キラル・アキラル）、キラル試薬、受託分取・精製サービス、分析サービス、合成サービス、遺伝子解析研究試薬、新規投与デバイス
	ヘルスケア	化粧品原料（ポリグリセリン誘導体、酢酸セルロース真球微粒子（BELLOCEA®）など）、機能性食品素材（エクオール、こんにゃくセラミド、ウロリチン、ラクトビオン酸など
スマート	ファンクショナルプロダクツ	脂環式エポキシ、カプロラクトン誘導体、オプティカルレンズ
	アドバンステクノロジー	フォトレジスト材料、電子材料向け溶剤、機能フィルム
セイフティ	モビリティ	自動車エアバッグ用インフレーター
	インダストリー	電流遮断器、シートベルトプリテンショナー用ガス発生器（PGG）
マテリアル	アセチル	酢酸、無水酢酸、アセテート・トウ
	ケミカル	液晶保護フィルム用酢酸セルロース（TAC）、酢酸セルロース、1,3-BG、酢酸エチル、ケテン誘導体、エチルアミン
エンジニアリング プラスチック	ポリプラスチック社	ポリアセタール（POM）、ポリブチレン・テレフタレート（PBT）、ポリフェニレン・サルファイド（PPS）、液晶ポリマー（LCP）、環状オレフィン・コポリマー（COC）
	ダイセルミライズ社	水溶性高分子（CMC）、包装用バリアフィルム、AS樹脂

- 本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。
- ご使用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。
 - ・ 本資料の著作権は株式会社ダイセルに帰属します。
 - ・ いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。